



しんがし
二

僧 5
34
13



門 僧 5
34
3

あかりの二の巻

八月八日五日六日

梅枝の榮二

あがり月十日よりせんばら梅の榮の色くたりしるが
あがりきゆべ乃風ふほろくとあがりはるてよるる

花ちをいほど梅をりみたらりとも

又りのありふをいりりあがり

らききとむろひいしてやがしきは名をいり

御即位後奉幣諸神祝詞

小右記長和五年はらふ云く御即位後奉幣天下

諸神祝詞天皇スメラ我我が詔旨オホミコトノミ登ト皇神スメカミ寺廣前ヒロミヘ称辞言奉コトス



○ありのま二

○一

勢有無夏天祿元年三月廿日辛酉終日雨降上卿
不參仍無政也今日被發遣天皇御即位之後依先
例五畿七道諸國諸名神奉幣之使也件使等依神
祇官先日差申以大中臣齋部等為其官符給諸國
但從神祇官立件使等まゝ畿内七道使官符八枚
七道幣料以正稅可宛之官符五枚等也合十五枚
とらゝ此記之後小野官右大臣實資公の日記

圓融太上天皇紫野御子日事

同下記云云永觀三年二月十三日戊子巳時許參
院今日御子日也御御車令向紫野給左右丞相大

納言為光朝光大將濟時大將中納言文範途忠

清頭光重光保光右近權中將義懷散三位參議忠

清右衛門公季布衣右近中將道隆散三位公卿皆騎

馬著直衣著下重以纓柏挿龍大臣追候野口太

皇於野口乘御御馬右衛門尉惟風龍馬允親平等

為御馬籠殿上侍臣皆悉布衣京路野邊見物車如

即御御在所其御裝束立幄敷板敷又立簾臺懸

御簾其中立輕幄南其東為公卿座南其幄東又立

幄子午為侍臣座御前四方立屏幔御前植小松御

在所幄後立膳所幄御厨子所供御膳懸陪膳權中

納言顯光。顯光重光保光著布袴次居公卿及侍臣衝重一巡之後大納言為光以下侍從等起坐執籠物十捧及折櫃四本列御前。左大臣於御前向曰各稱名。云々左大臣次居檜破子於御前。左大將并正清懷遠時所儲也。次居調儲也。召和歌人於御前。先給兼盛朝通下官等所謂儲也。召和歌人於御前。臣時文朝臣元輔真人重之朝臣曾祢善正中原重節等也。公卿達祢無指召。追立善正重節等時通曰善正已在召人内。云々召兼盛。左大臣仰可獻和歌題之由。即獻曰於紫野。既子曰松者以兼盛令獻和歌。序此間有蹴鞠。夏左大將左衛門督源中納言兩

三位藤宰相余及殿上侍臣等蹴鞠。夏及黃昏仰曰。至于和歌於院可獻序置和歌等各者。夏燭還御本院。召公卿於御前有歌遊之夏。召余為和歌講師。右大臣以下獻和歌。左大臣不獻。如何々。左右兩丞相賜御衣。納言以下賜白褂。侍臣足給。又給御隨身。深更各々分散。御紫野之間。從内使右近少將信輔有御訪。即召御簾外給圓座。申御消息。余執祿被之。拜舞之間。失礼太多。今日四位五位六位皆著綾羅如何。下官著白襖薄色袴也。
長保元年女侍入内料屏風歌事

同記云。長德五年十月廿八日。彼此云。昨於左府撰
定和歌。是入内女御料。屏風。哥。花山院。法皇。右衛門
督公任。左兵衛督高遠。宰相中將齊信。源宰相俊賢。
皆有和歌。上達部依左府命。献和歌。往古不聞。夏也。
何況於法皇御製哉。又有主人和歌云。今夕有被
催和歌之御消息。令申不堪。由定有不快之色。欵此
夏不甘心。夏也。云々。同日云。右大辨行成書屏
風。色紙形。華山。法皇主人。相府右大將右衛門督宰
相中將源宰相。和歌。書色紙形。皆書名。後代已失。面
目。但法皇御製。不知讀人。左府歌。書左大臣。件。夏奇

怪夏也。と云。左府々。法皇。夏。白道。云々。女上。东。口。後
の。入。内。乃。を。ま。り。し。

内裏燒神鏡燒損

寛弘二年十一月十五日子刻許云。内裏燒亡者
云々。火起自温明殿。神鏡所謂大刀契啓不能取出
云々。云々。十七日云。定申神鏡燒損。夏云。神鏡
大刀并契書燒亡。鏡僅有蒂。自余燒損。無圓規。失鏡
形云。村上御記云。天德四季九月廿四日燒亡云
々。廿四日。重光朝臣申云。罷到温明殿。所求見。瓦上
在鏡一面。其鏡徑八寸。頭雖有。一。疵。專無損。四。規。并
帶。等。甚。以。分。明。露。出。縁。被。瓦。之。上。見。之。者。

無_レ驚_キ云々。廿五日。清遠伊陟寺合申。又求得燒鏡一
面云々。故殿御日記云。恐_カ所_レ雖_レ在_レ火灰燼之中。曾_レ不
燒損云々。鏡三面。中伊勢大神。如_キ件_レ詔_レ似_キ三面云々。
十二月九日。左頭中將來_レ立_テ云。今日酉刻。神鏡自
太政官奉_レ移_レ東三條院。可供_レ奉_ス其_レ夏_者云々。十日頭
中將示_レ送_テ云。神鏡昨奉_レ移_レ。但_レ閑_キ舊御_レ韓櫃_持奉_レ納_メ新
辛櫃之間。忽然有_リ如_キ日光照耀。内侍女官等同見。神
驗猶新。最是足_レ恐_キ驚_キ者。同記云々。云々。

四角四塚祭の事

同記云。長和四年四月廿七日。来月一日四角四塚

祭。夏依_レ光榮朝臣上奏所_レ被_レ行_也云々。五月六日。今
夜吉平奉_レ仕_ス四角祭。枇杷殿。四角者云々。九日。今日
公家被_レ行_ハ四塚祭。

賀茂行幸の時の宣命
同記云。寛仁元年十一月廿五日。賀茂行幸時の宣命。天皇
我_ガ詔_云。止_シ掛_レ畏_岐。賀茂皇大神。乃_ハ廣_前。恐_見。恐_見
申_賜。倍_申。久_申。年_来。乃_ハ間_令。祈_願。給_倍。事_在。乃_ハ然_毛。驗_毛
久_冥。助_相。通_天。其_レ驗_昭。然_奈。恐_由。乎_報。賽_世。之_シ。給_冬。者_ハ
止_所。念_行。年_天。奈_故。是_以。吉_日。良_辰。を_撰。定_天。金_銀。乃_ハ
御_幣。仁_錦。蓋_鏡。劔_平。劔_唐。組_平。緒_御。弓_御。箭_御。粹_御

鏡并種々神寶音樂走馬東遊寺相並而唱進
行幸給布又前年仁愛宕郡一郡奈加可奉寄之由
令祈申給依而件郡内所在或帝王城都或
明神領地是萬代相傳之處奈曾非一人自由之地
須仍南者皇城乃北乃大路乃同末限東波郡
界至末西波大官乃東大路乃同末限北波郡
界仁至末奉寄給布但此内仁有凌室藏氷之色
是又百王之職更奈社難致一時改易之縱在神郡
内可除此一邑之抑上下乃御社仁件郡乎平均
奉分給倍然毛田園鄉邑乃數須忽以難決

追以後日各可奉界皇大神此狀平安
聞食天弥垂感應天禮天皇朝廷寶位無動常盤
堅盤仁夜守日守仁護幸倍奉給比四海清平仁萬
民安樂水旱飢疫乃難未兆仁拂退介農圃
蠶養之業每事尔豐登天女唐堯仁同德之漢文
仁比名天叡慮乃尅念仁無違必不然護惠三奉
給倍恐見毛申賜此波父申辭別天申賜此波父
申父皇太后毛同父共參給冥助不空須感應
暗至天后闈之月長明仁母儀之風弥芳天之萬歲千
秋未天夜守日守尔護幸倍奉給恐見毛申賜

〇五ウクヨニ

〇七

波久 申。寛仁元年十一月。

同記。小。寛仁二年十一月十五日。被奉寄賀茂上下。

郷。可。定。申。也。栗栖野小野二郷上下。社司各申。

但。昨。日。下。社司久清進解文。可。尋。舊。記。皇大神初。天

降。給。小野郷大原御蔭山也。云。亦栗栖野。可。為。下

社。之。山。有。採。桂。葵。山。之。由。先。年。給。官。符。仍。件。小野并

栗栖野郷。可。為。下。社。領。者。

天皇降元服の。山陵小若。宣命。

同記。小。天皇。我。詔。旨。掛。畏。其。山。陵。申。賜。止。申。

久。公。卿。議。奏。明。年。波。天。皇。加。御。歲。漸。久。冠。年。近

給。布。倍。冠。者。成。人。之。始。如。盛。禮。乃。嘉。事。來。正。月。乃

吉。日。良。辰。元。服。奉。加。天。人。望。可。叶。止。奏。掛

畏。支。山。陵。乃。廣。助。依。天。平。久。安。令。果。行。給。倍

之。故。是。以。此。狀。乎。官。位。姓。名。乎。差。使。天。恐。見。恐。見。申

賜。波。久。奏。寛仁元年十二月十九日

同記。小。寛仁二年十月立后節會。夜太閤。山。乃。好。了。り。此。時。又

原。威。子。立。皇。后。云。太。閤。招。呼。下。官。云。欲。讀。和。歌。必

可。和。者。答。云。何。不。奉。和。乎。又。云。誇。る。哥。に。有。る。但

○かくりま二

〇八

思ひをめぐり、又、^一神世にきてゆくあたりに、つひに永
 身をいづると思はるるを、^一皆、まこと、又、^一第、十、久、^一の
 天の志、^一と、水、^一河へ、^一おき、^一神代、^一昭、^一め、^一これ、^一天
 の川を、^一い、^一て、^一ま、^一ま、^一く、^一あ、^一は、^一を、^一き、^一よ、^一し、^一神、^一の、^一あ、^一の、^一あ、^一が、^一
 を、^一は、^一が、^一の、^一山、^一崎、^一の、^一河、^一を、^一お、^一る、^一あ、^一は、^一流、^一川、^一と、^一な、^一ら、^一し、^一あ、^一は、^一が、^一し、^一
 ぶ、^一た、^一の、^一河、^一を、^一お、^一り、^一た、^一い、^一山、^一崎、^一川、^一と、^一な、^一ら、^一し、^一田、^一川、^一と、^一い、^一て、^一
 と、^一上、^一件、^一い、^一つ、^一が、^一お、^一く、^一ふ、^一て、^一み、^一を、^一せ、^一河、^一と、^一い、^一ふ、^一た、^一な、^一な、^一な、^一な、^一な、^一
 ろ、^一より、^一の、^一後、^一の、^一名、^一を、^一さ、^一ら、^一し、^一類、^一聚、^一國、^一史、^一の、^一延、^一曆、^一弘、^一仁、^一の、^一ころ、^一天、^一を、^一水、^一成、^一野、^一
 の、^一遊、^一獵、^一を、^一い、^一ふ、^一る、^一あ、^一は、^一が、^一く、^一な、^一り、^一て、^一水、^一成、^一村、^一と、^一い、^一ふ、^一る、^一あ、^一は、^一が、^一り、^一今、^一
 乃、^一の、^一あ、^一は、^一流、^一と、^一い、^一ふ、^一る、^一あ、^一は、^一が、^一り、^一て、^一後、^一ふ、^一る、^一あ、^一は、^一が、^一り、^一川、^一の、^一名、^一も、^一あ、^一れる

あり、^一り、^一と、^一さ、^一ら、^一し、^一水、^一成、^一と、^一い、^一ふ、^一る、^一あ、^一は、^一が、^一り、^一と、^一よ、^一び、^一き、^一し、^一不、^一業、^一の、^一水、^一成、^一川、^一
 と、^一あ、^一る、^一も、^一然、^一ら、^一し、^一べ、^一し、^一成、^一を、^一さ、^一ら、^一し、^一あ、^一は、^一が、^一り、^一と、^一い、^一ふ、^一る、^一あ、^一は、^一が、^一り、^一と、^一い、^一ふ、^一る、^一
 かの、^一地、^一名、^一も、^一又、^一川、^一の、^一い、^一は、^一る、^一も、^一さ、^一ら、^一し、^一あ、^一は、^一が、^一り、^一と、^一い、^一ふ、^一る、^一あ、^一は、^一が、^一り、^一と、^一い、^一ふ、^一る、^一
 通、^一り、^一い、^一つ、^一と、^一い、^一ふ、^一る、^一あ、^一は、^一が、^一り、^一と、^一い、^一ふ、^一る、^一あ、^一は、^一が、^一り、^一と、^一い、^一ふ、^一る、^一あ、^一は、^一が、^一り、^一と、^一い、^一ふ、^一る、^一

両部唯一といふ事

天、^一の、^一社、^一の、^一り、^一非、^一人、^一の、^一つ、^一つ、^一の、^一社、^一を、^一倍、^一の、^一唯、^一一、^一とい、^一ふ、^一は、^一
 師、^一の、^一つ、^一り、^一る、^一社、^一を、^一兩、^一部、^一と、^一い、^一ふ、^一又、^一兩、^一部、^一の、^一神、^一道、^一と、^一い、^一ふ、^一あ、^一は、^一が、^一り、^一
 も、^一つ、^一り、^一兩、^一部、^一と、^一い、^一ふ、^一佛、^一の、^一さ、^一ら、^一し、^一密、^一教、^一の、^一胎、^一藏、^一界、^一金、^一剛、^一界、^一の、^一兩、^一部、^一と、^一い、^一ふ、^一あ、^一は、^一が、^一り、^一
 ふ、^一と、^一い、^一ふ、^一神、^一の、^一さ、^一ら、^一し、^一密、^一教、^一の、^一胎、^一藏、^一界、^一金、^一剛、^一界、^一の、^一兩、^一部、^一と、^一い、^一ふ、^一あ、^一は、^一が、^一り、^一
 を、^一以、^一て、^一神、^一を、^一合、^一せ、^一る、^一よ、^一し、^一部、^一字、^一を、^一て、^一い、^一ふ、^一べ、^一し、^一神、^一と、^一佛、^一

人乃とありしとして、昔は人なりといふにせしむるなりといふ
 よはづふかや、海道の國人のときまざりしなり。

姓氏のよ

今のまふ、姓ナリのよきとせむる人のときまざりしなりといふなりといふなり
 がゆといふも、みまぢ人のときまざりしなりといふなり、姓乃たきまぢ
 らざりしなり、あぢ申むるなりといふなり、苗字のよき
 むるなり、まふ下なるりのときまざりしなり、姓と苗字を
 をなるなり、おのよきまぢなり、おのづから姓と苗字
 りとせむるなり、まへにみまぢなり、おのづから姓と苗字
 のありし人なり、くぢなる者なり、姓のよきを、おまぢなり、くぢ

ゆまにせむるなり、あぢ申むるなり、おのよきまぢなり、おのづから姓と苗字を
 りとせむるなり、まへにみまぢなり、おのづから姓と苗字
 のありし人なり、くぢなる者なり、姓のよきを、おまぢなり、くぢ
 その申ふ、近き昔は人のなまの姓ハ、十に九つまでハ、源氏系なり、そのい
 うへハ、乃のぬくは、氏ハ、姓ハ、おのづから姓と苗字を、おまぢなり、くぢ
 や、おまぢなり、くぢなり、おのづから姓と苗字を、おまぢなり、くぢ
 位なるなり、あぢ申むるなり、おのよきまぢなり、おのづから姓と苗字を
 くのみ、おまぢなり、くぢなり、おのづから姓と苗字を、おまぢなり、くぢ
 から、おまぢなり、くぢなり、おのづから姓と苗字を、おまぢなり、くぢ
 し、おまぢなり、くぢなり、おのづから姓と苗字を、おまぢなり、くぢ

源平藤橘あざのこなるがごとくんはるかく。おのが好こしつゝこ
かつくも皆こねはらぬがあらたけりあつきの姓をききしむ。
いふく源平藤橘はましくなりきぬる。又たの名きくはらぬこ
人をとてしていその子孫ごとくしひりて。字向はるりのを菅原
大江あざあなり。武士を多く源平あつとらひあると。まてて進き
そもよみしんかどの人々も。苗字はさんしひひらして。
姓をかゝりて。おりのまはしくばるなりひるるあふおのがんり
やうせておるし。また又らうの年がら。美柴やりのあひのみ。た
そのあひら。又ぬらに姓をおり。わらひして。その人乃きくとある
とぬ。あまらう。はらひ。ふはきて。おのこ者とも。まう。は。か。乃。漢

学者のかく。老うて。苗字まきり。うらて。一まおのこ。はらひ。
おのこ。い。う。はら。う。その人のむらき。おのこ。お。い。か。う。は。い。こ
お。お。か。し。い。ふ。へ。を。と。て。わ。ら。な。く。は。た。け。ま。お。を。ま。ち。を。て。は。ひ。
さ。や。う。小。姓。あ。ど。と。み。づ。る。ふ。ま。を。あ。ど。き。ま。ら。お。あ。ふ。う。は。福。津。日
前の探湯ながたまも。お。そ。ま。お。お。ら。は。や。う。あ。ふ。た。は。お。ひ。と。い。は。る。を
し。や。は。さ。も。く。姓。を。先祖より傳ふるあふ。も。何。と。上。より。賜。う。ら
ざ。う。む。う。ば。り。ふ。お。ま。う。せ。て。さ。う。さ。う。く。に。ま。ぎ。お。の。ら。う。ご。
ま。い。ふ。も。姓。よ。ら。う。ず。も。中。が。あ。の。お。は。り。い。あ。が。ら。父。の。お
よ。う。お。の。こ。お。て。う。ら。し。も。な。か。ま。さ。し。も。有。べ。き。お。の。が。う。ら。ふ。
お。き。ひ。て。い。は。ら。う。う。は。ら。ま。ぎ。ま。お。ふ。ま。む。姓。を。う。ら。し。も。さ。う。ら。ん。い。は。ら。

おん人などい苗字を正しく守るべきにぞおろかり。さてこの
苗字は苗字ハ、よゝおきてしこハ、りや名字なり及びを。然虫
てハ、名又あざねふすげやゝあふきかへち物あふべ。名字とか
くむ。つゝとさふまけくげさじら申すハ、名をも又姓と名と
をほく稱てもむろくある名字といひつとバ、姓の小分コニツチも同
くおしあうア。し又今人おのがまはしと成も。父のすを
と。同苗といふ。こも。や同名も。同姓なり。おろ。

あざ名といふ物のす

あざ名といふの。うれ支琳菅三平仲をどのくぐひのよ
とつらば。右より。正しは名のか小ぶ名を。字といふことま。申

むうにき今のいも。俗名を。字といふこと。つら。まか。も
田比の字。何乃字。と。お字。おどい。お。皆正しく定まれる名。と。と
なつて。よ。び。あ。う。へ。成。い。つ。ら。い。づ。も。侍。人。の。字。と。ハ。お。と。く。し。
そ。が。申。ふ。今。は。俗。名。を。い。へ。る。ハ。侍。人。の。字。と。つ。ら。を。一。物。と。り。

哥書の註を抄とねづく。

むう。と。と。お。ぬ。の。註。を。抄。と。い。ひ。え。も。名。を。も。お。ろ。く。某。抄
と。つ。ら。抄。の。字。ハ。註。釋。と。い。は。し。と。げ。さ。と。り。後。に。う。り。し。て。
佛。が。ふ。ち。を。書。け。さ。に。う。り。し。て。記。と。も。集。と。も。抄。と。も。名。
き。と。つ。ひ。は。る。お。と。び。お。ぬ。の。註。を。抄。と。い。ふ。も。り。と。佛。と。乃
名。と。も。お。ろ。へ。る。の。な。を。し。

久安五年忠通公任太政大臣宣命

兵範記云久安五年十月廿五日云今日任
太政大臣云々節會如例右大臣為内辨左宰相中
將經宗朝臣為宣命使其文云天皇我詔旨勅御
命親王諸王諸臣百官人等天下民衆聞食と宣
攝政從一位藤原朝臣者宗門相繼天國乃賢佐
忠貞乃心を持天先く乃御世守り天下乃政を
穴比奈助奉最久之因茲天太上天皇乃傳國
詔命も攝政之職よ治賜るつ夏在りばか朕加が踐祚乃
始メ万機を折之功績古リタ加之ズ強綵亦在り

之時り輔導保護仕奉る年久し君臣之道雖存
も孫祖之義尤厚之頃年久し舊例乃任尔早久太政
大臣乃官仁上賜とは念御座を謙損乃心増深
先朝乃御宇尔件官を辞退り而有所思天太政
大臣乃官止給治賜と勅御命も衆聞食と宣久安
彌益勤仕奉る勅御命も衆聞食と宣久安
五年十月廿五日作者大内記長光

行成記書写の事
同記云久安五年十一月廿六日依召早參鳥羽殿
法皇御于北殿權辨以下執筆輩十餘人同應召參

色ねるなり。母は孝者。とて。おまがむ。こゝおわし。さきど
まは。と。またの人。は。む。さ。さ。く。薄。ま。ふ。さ。かり。て。説トキ。説トキ。の
み。ま。ら。も。て。み。づ。く。も。ほ。ど。く。い。ま。さ。か。く。ご。海。の。と。ま。の。ほ。く
さ。う。あ。か。く。その。さ。う。き。と。え。は。さ。く。さ。り。の。し。お。の。か。わ。お
り。む。さ。い。お。も。く。く。古。事。記。書。記。ふ。と。さ。れ。も。古。の。傳。説ツタヘゴト。乃
ま。い。じ。昔。の。人。の。つ。ふ。き。み。さ。その。ま。ぢ。ひ。居。る。薄。ま。く。小説トキ。曲トキ。も。わ
ら。く。い。と。ふ。て。い。く。く。古。傳ツタヘ。説トキ。と。異。じ。此。言。ら。免。れ。た。事。記。書
紀。を。よ。く。こ。び。お。の。つ。く。か。る。べき。施。ま。や。り。た。の。が。説。を。さ。か。免。む
と。あ。く。ば。す。け。古。事。記。書。記。を。さ。か。免。む。し。此。傳ツタヘ。典トキ。も。も。を
信。せ。ん。ら。だ。り。は。お。の。が。説。を。さ。か。免。む。と。え。い。ど。

神祇の歌

風雅系フウガの神祇カミ。於オ。小コ。の。り。や。よ。る。と。も。ら。う。ふ。お。ど。り。家。神イヘカミ。あ。れ。は。
月ツキ。は。さ。り。も。何ナニ。の。さ。き。と。い。ふ。方。者。て。こ。こ。は。和。泉。式。部。録
ゆ。ふ。ま。く。む。と。り。き。さ。ふ。ち。も。と。お。て。な。幣。加。る。の。さ。り。け。る。小。説
や。ら。ぬ。身。は。う。に。を。り。も。お。り。て。月ツキ。は。さ。り。を。た。る。さ。か。あ。り。き。
と。よ。み。く。神カミ。の。り。く。る。幣。は。ま。ふ。若。さ。せ。給。ひ。り。と。な。ん。と。何。と。い。ふ
と。い。く。さ。は。さ。ふ。お。う。ね。も。と。佛ブツ。の。ま。じ。申。む。り。と。ま。を。て。其。の
た。り。ひ。く。を。げ。和。泉。式。部。録。に。ほ。り。し。け。り。あ。る。は。の。も。つ。の。り。
ま。ら。も。て。佛ブツ。を。こ。れ。ん。お。さ。み。つ。き。し。り。し。く。ら。い。さ。さ。ま。を。も。ん。と
家。小。の。ま。ま。を。と。神カミ。を。い。く。り。か。は。は。い。お。り。む。唐チリ。小。ま。り。は。る

あるといふことか。かゝるゆゑは老子といふか。和光同塵といふこと
のあるをとりていひやう。みづからいふことか。ちかふ神の湯
うへ小なきことし。ゆゑかやうのむづかふまぢひて。神をナカをナカ
なりき。又同じ系ほどいふ。交會朝棟といふ人の言ふか。かゝる
かたかあ八内わふつことか。誓チカヒハあをいせ乃神風をチカヒ
此方のそむくべきことし。神の誓言といひあふ。跡をことてねどいふ事
をいひて。みあむことし。申考よりことね。むづかき佛の道はこと
りて。神のいふことをいひ。わは本地垂迹の伝ふまぢひて。神も本
地のみを佛といふゆゑよりいひあむことし。伊勢はまの神つこと
なり。人といふか。源がこといふことか。かゝる佛の言のやうなる誓言

まゝ垂迹あるといふこといへば。すべて神のいふこといへば。形なきこと
をいふや。又世のいふこと神のいふこと。かゝる社の伝説がねどい
ふが。つら。い。わ。く。は。ほ。く。し。は。ち。の。が。の。ま。は。人。を。お。の。が。さ。ふ。入
と。し。料。い。つ。り。作。る。お。し。ち。ふ。よ。ま。さ。や。う。は。ま。神。の。さ。は
さ。に。か。あ。り。か。管。佛。ま。なる。ご。り。ま。て。む。う。と。う。と。信。の。人
を。い。ふ。わ。あ。り。そ。う。ご。と。ま。さ。と。い。は。る。か。か。ね。ま。う。は。釋。迦。とい
ひ。人。の。方。便。を。い。ふ。こと。ふ。な。う。ひ。て。ね。る。を。し。し。
古今集月の言はる事
月をば。秋の影をさすことなれど。古々素より。八月は。新。の。影
小い。り。秋。影。う。は。く。五。を。入。る。そ。は。秋。とい。わ。る。可。る。事。又。層

州といふことハさうに足らぬ。然るを近き世に人々ハ家
上の位を先にも置れおへし。びみりふかき。然るをこの好
く。某州といふよりハ某州といふをうり。ききふん。於て。いし
も。ま。お。ハ。い。ふ。ぞ。や。前。後。上。下。な。ど。ふ。分。き。る。名。乃。名。の。一。字。ふ
て。ハ。ま。だ。さ。ハ。野。々。上。州。下。州。あ。る。ハ。越。前。州。能。後。州。を。と。と
書。き。り。そ。も。く。國。の。字。も。州。の。字。も。同。く。久。ル。に。ち。り。さ。が
も。奈良。律。代。を。ど。より。ハ。か。い。ふ。こと。も。み。る。その。文字。決定。め
きて。ふ。お。う。せて。ハ。か。い。づ。も。し。お。る。を。や。又。或。儒。者。の。い。つ。ハ。お。と
い。ふ。を。封建。の。制。よ。り。さ。り。皇。朝。も。郡。縣。の。制。ふ。を。う。れ。し。る
昔。も。州。を。ど。く。も。い。ふ。べ。り。も。國。と。定。め。し。れ。し。ハ。何。れ。も。ぬ

文字といふハ漢國の今まで其例のなつて申す所のま
のうろふも。何れ。びみり。き。む。が。し。ま。ら。う。の。ま。は。今。ま。で。の
例。ハ。封建。とい。ひ。代。ハ。齊。魯。晉。楚。を。と。い。ひ。つ。ま。は。い。も
各。郡。縣。の。り。たり。て。し。る。ハ。某。州。とい。ふ。て。ハ。今。ま。で。乃。代。ハ。例
なり。も。ハ。し。さ。し。と。そ。も。ふ。た。つ。も。ハ。か。い。ふ。か。の。ま。の。ハ。海。も
何れ。も。と。い。ふ。ゆ。ゑ。ハ。さ。て。か。の。ま。で。か。や。り。其。お。の。定。め。ハ。さ。し。づ。く。の
例。ハ。か。い。づ。も。さ。し。づ。く。王。の。い。ふ。も。て。い。ふ。も。し。く。定。む。る。も。お。て
その。定。め。も。さ。し。づ。く。も。用。ひ。さ。る。や。う。ハ。な。り。さ。し。づ。く。地。の。か。ち。ま。ぬ。を
と。し。後。の。代。ハ。い。ふ。も。し。づ。く。者。て。先。の。代。ハ。例。を。ま。し。と。し。り。さ。し。づ。く。
そ。ハ。さ。し。づ。く。ま。れ。その。定。め。ふ。も。さ。し。づ。く。も。さ。し。づ。く。され。ば。その。い

ころをりといふ。皇朝おても。天下をの郡縣の制おさし
て定めり。是れより一時代も。其名を改めざる。おや。た。よ。り
を。ま。し。ま。し。小。某。國。と。定。め。給。ひ。し。り。と。天。皇。は。大。地。を
お。し。り。し。た。ば。な。て。ふ。こと。り。は。い。ふ。ん。お。あ。い。し。た。か。く。ま。の。ころ。は
い。ふ。ま。れ。そ。と。ふ。か。り。る。べき。と。は。皇。國。を。皇。國。と。お。ま。や。

儒者名をみざる

孔丘ハ名を正をさし。いみきまざら。つと。げ。か。の。近。き。と。ら
の。ま。り。や。は。よ。う。づ。小。名。を。み。ざる。と。代。の。つ。と。む。り。そ。が。中。小
地。の。名。お。ど。か。く。免。う。は。し。の。べ。り。は。は。た。か。へ。し。お。ま。り。せ。て
お。ま。り。お。ど。か。あ。つ。と。か。ら。る。べき。ま。お。や。け。は。お。ま。り。つ。く。わ。る。ま。り。

名どをさへふ。さう。は。お。ま。り。せ。て。み。ざ。り。お。つ。と。め。定。め
て。書。か。れ。い。し。し。可。畏。き。ま。ざ。ら。し。ま。や。近。き。ま。小。或。儒。者。乃。今
の。世。ハ。あ。れ。名。正。し。か。く。は。某。を。今。ハ。あ。ら。く。と。は。い。ふ。べき。お。つ。と。は。
あ。ら。く。い。し。し。を。正。し。し。は。お。ど。か。し。て。ま。り。今。の。世。乃。お。つ。と。は。
お。ま。り。せ。て。例。の。私。小。お。ま。り。い。ら。る。ま。り。お。ま。り。や。そ。し。て。は。孔。丘。が
名。を。正。さ。し。や。は。諸。侯。を。は。み。ざ。り。た。ら。南。時。の。つ。と。は。お。ま。り。
ま。り。お。ど。か。し。た。ら。お。ま。り。周。王。の。り。や。は。定。め。さ。し。ま。り。つ。と。は。か。の
或。儒。者。の。お。ど。か。し。た。ら。お。ま。り。お。ま。り。か。つ。と。は。今。の。名。お。ま。り。
か。つ。と。は。今。の。世。お。ま。り。お。ま。り。お。ま。り。せ。て。ま。り。お。ま。り。
ま。り。孔。丘。が。春。秋。の。ころ。と。は。い。ふ。ま。り。お。ま。り。お。ま。り。お。ま。り。

年九月廿五日。今日竹林院入道左大臣、卅三回忌辰也。因茲廣義門院就于西園寺、無量光院壇場、被修御佛、更件、暮月佛更先規未詳云々。且取于教内、更無所見云々。然而或又有言、此更之人、欵予先妣此忌辰、有相當更所詮幽靈之追福、遠近盡懇志之條、可叶孝子之道、欵と有り、此論めどやうなり。

鏡女玉額田王

系業系に鏡女玉、も額田王と有り。二人の女玉たり。まきりて、まの鏡女玉、鏡王女と有り。皆誤あること。又額田王とハ別あること、師の考ふ辨へらるるが如し。さて右ハ女玉を

とて某女玉といふ。男玉と曰く。某玉といふ。かくて系業乃てらふ。つりてハ女玉をハ皆女玉と記さる。此額田王ハ女玉はまきハ、古き拙記より、まの記せる如く、ハ鏡女玉ハ父の名とまきりて、まの女玉と記さるべし。さて右の二女玉、まの鏡王といひ、一人の女玉て、鏡女玉ハ姉、額田王ハ弟とす。つり父王ハ、近江の野洲郡の鏡の里小住に、つりて、鏡王といへ。まの記せる如く、呼名ハ、まの女玉とす。女子も、まの父の郷小住に、つりて、何とく鏡王と呼ぶこと、地の名をとりてよべるハ、父子兄妹など、何と名あるまき、そハ事ハ、ゆきてまの記せる如く、女子の方を、鏡女玉とて、こからつ、まの記

まをたうでハ傳ちうづといふ。おのが足とりー本も八十五巻
まで。一冊のちちりき。

松崎の日記といふ物

清少納言が巻をて後し。かくは松崎小下百の道の日記也
て。やがて松しぬれ日記と名づけし物。一冊有り。免づし
おきて。足りふもやくいし。に傳イソカリ出まて。むげおほく
えぞうろたき物し。ちちハちうにねど。古きとまらる者のはたは
つきとぞゆかふる。まてと近き事ぞらる。さるはいつそりぬを
くり出さる。むぎひ乃。とふまらる。えうおきまむむびおおやくのい
ま。御つき。むをむくまきて。よの人ままぞをうんとまらる。ハ。いづれ

ゆめむまらうむ。よく。る人乃。足る。おハ。まこと。いつそり。ハ。い
よ。お。ま。ら。れて。いつち。ち。ら。る。事。ど。は。う。り。ぬ。る。人。を。い。と。く。ま。れ
み。し。も。え。ー。と。え。に。か。ぬ。の。み。お。ち。お。わ。る。ま。む。げ。の。傳
ぬ。お。も。ち。ら。む。む。と。て。い。ち。お。と。り。と。や。を。お。る。ハ。い。と。く。
か。ら。う。い。ち。か。ら。ー。き。日。に。近。ま。て。ち。ハ。中。に。免。づ。し。き。書
ま。え。う。ぢ。る。の。り。か。く。ま。ま。む。免。づ。し。ま。ま。の。の。お。あ。う。ぬ。が。お
や。ま。を。ち。ち。む。し。て。う。い。ち。か。へ。ま。ま。む。む。し。ま。ま。大。長。け。う。き
ゆ。つ。り。とい。ふ。須。磨。の。記。とい。ふ。物。ま。ど。や。ー。よ。ふ。む。ろ。う。て。い。れ。し。は
い。ち。ち。ひ。し。め。ら。い。ち。ち。ち。い。み。し。き。傳。ま。む。る。を。や。か。り。ぬ。く。む。ひ
救。う。づ。ぬ。お。あ。ー。ち。ち。す。い。ち。ち。む。ま。べ。ー。

を國ゆづると下し。と心だだし。又今本ハ。とく。一。是れ
 を上。下。ふ。さ。き。り。の。上。下。を。又。か。な。と。て。合。せ。し。三。十。を。
 せ。と。と。又。ぬ。き。一。本。ハ。い。づ。の。む。し。を。オ。十。一。一。一。秘。教。子
 オ。十。二。と。い。ゆ。づ。り。三。を。オ。十。六。オ。十。七。オ。十。八。と。上。
 下。成。オ。十。九。オ。十。と。せ。と。い。づ。は。つ。い。で。い。つ。と。よ。か。む。む。の。と
 い。は。ぬ。て。さ。べ。い。ま。ご。え。と。か。む。へ。ど。又。ん。人。あ。や。む。
 へ。と。定。り。て。よ。そ。も。く。考。へ。ど。ハ。何。ド。尾。張。お。人。淺。井。が
 某。ガ。此。物。流。を。ぬ。こ。善。本。ハ。依。て。考。へ。置。と。わ。ら。ぬ。と。さ。ま。ら。な。い。と。き。
 い。せ。れ。ぬ。と。辛。洲。社
 伊。勢。お。れ。志。願。り。辛。洲。社。と。い。ふ。あ。る。と。ぬ。ら。社。と。い。ふ。あ。れ。ど。

いう。お。り。神。ふ。お。り。ん。と。う。ぬ。俗。ハ。天。照。大。神。の。伊。妹。お
 ま。れ。と。中。津。之。近。き。と。る。神。別。本。紀。と。ぬ。づ。ま。る。物。子。尼。と。ハ。天。照。大。神
 の。伊。妹。と。可。良。須。女。命。と。い。ふ。あ。る。ハ。俗。説。お。り。て。遠。く。出
 と。名。し。此。書。ハ。書。籍。目。録。ふ。け。名。ん。て。昔。々。傳。り。ぬ。書。が。家
 々。と。道。たり。と。て。ぬ。ま。さ。う。き。者。の。近。き。世。お。傳。り。傳。る。物。と。又
 えて。後。の。昔。々。さ。ら。ぬ。お。く。さ。べ。と。取。ら。り。ぬ。の。と。い。
 ぬ。と。い。と。今。ハ。え。や。と。ぬ。色。係。事
 ニ。三。十。年。り。あ。す。ま。で。ハ。う。ち。ぬ。び。ま。る。人。も。と。ら。う。き。母。の。さ。ぬ。み
 きの。と。ま。び。て。美。葉。子。よ。な。お。と。な。う。又。神。学。者。と。い。ふ。お。と。と。い
 傳。ら。ぬ。の。理。を。の。と。さ。べ。と。た。ぬ。ま。と。の。う。ら。ぬ。さ。え。む。と。い。思。を

ことあり〜ついでして、よみくさるるをかく〜師ふし〜
 ことあり〜ついでして、よみくさるるをかく〜師ふし〜
 ことあり〜ついでして、よみくさるるをかく〜師ふし〜
 ことあり〜ついでして、よみくさるるをかく〜師ふし〜
 ことあり〜ついでして、よみくさるるをかく〜師ふし〜
 ことあり〜ついでして、よみくさるるをかく〜師ふし〜
 ことあり〜ついでして、よみくさるるをかく〜師ふし〜
 ことあり〜ついでして、よみくさるるをかく〜師ふし〜
 ことあり〜ついでして、よみくさるるをかく〜師ふし〜
 ことあり〜ついでして、よみくさるるをかく〜師ふし〜

さへ〜ついでして、よみくさるるをかく〜師ふし〜
 さへ〜ついでして、よみくさるるをかく〜師ふし〜
 さへ〜ついでして、よみくさるるをかく〜師ふし〜
 さへ〜ついでして、よみくさるるをかく〜師ふし〜
 さへ〜ついでして、よみくさるるをかく〜師ふし〜
 さへ〜ついでして、よみくさるるをかく〜師ふし〜
 さへ〜ついでして、よみくさるるをかく〜師ふし〜
 さへ〜ついでして、よみくさるるをかく〜師ふし〜
 さへ〜ついでして、よみくさるるをかく〜師ふし〜
 さへ〜ついでして、よみくさるるをかく〜師ふし〜

ひつよみありきりて。さして人のよむゆりの。おのがんまはうねんご
とくせいも。おのがよて。よむゆりの。今の昔はありおもそむじうねだ。
人々もがせむぞ。有らぬ。そのよまふと。りつと。別おひいてん。
て後。ふりかたり。さう。一。は。た。り。の。お。り。一。人。の。近。ま。て。あ
かとり。て。冠。辭。考。とい。お。お。を。え。き。て。ふ。ま。で。縣。居。大。人。の。傳。名。
ま。し。始。ま。て。と。り。ら。か。く。て。も。ふ。ま。で。さ。ふ。一。と。り。あ。ん。一。ふ。ま。
さ。ふ。お。し。も。く。き。ぬ。す。お。し。か。り。て。ち。め。り。あ。う。わ。く。は。や。一。た。や。
お。か。が。え。て。さ。う。お。信。む。る。む。を。ち。り。さ。り。一。う。ど。後。あ。や。う。の
法。だ。し。と。お。し。て。ま。う。り。今。一。ま。び。え。と。ま。れ。く。ま。い。ぶ。ふ。の。や
と。お。か。が。ゆ。る。ゆ。一。ぐ。も。い。づ。き。ら。も。ま。又。ま。う。り。さ。ふ。お。い。い。く。ぐ。ふ。く

お。か。が。ゆ。る。ゆ。一。お。わ。く。お。り。て。さ。う。ま。び。一。信。む。る。む。乃。出。ま。し。後。ひ。お
い。い。一。へ。が。り。れ。さ。う。ゆ。て。ま。い。れ。ま。し。お。か。が。ゆ。る。ゆ。の。さ。り。思。が。て
後。一。お。ひ。く。う。お。ま。ば。う。は。繁。仲。が。お。繁。の。説。を。あ。か。い。ま。び。一
ま。し。の。ま。で。ま。う。り。さ。ふ。お。の。が。あ。ま。お。び。の。ま。し。一。や。う。大。く。か。く。の
お。い。く。わ。り。き。ま。し。て。又。道。の。ま。び。も。ま。び。の。ま。ま。し。と。し。神。書。と。い。お
ま。ま。の。お。あ。ま。き。近。ま。し。さ。や。り。れ。や。と。ま。つ。ま。ま。と。い。ら。ば。う。の。乃
ほ。ど。よ。ま。し。た。て。む。び。一。さ。う。か。が。ゆ。る。ゆ。の。ま。ま。し。と。い。は。ゆ。ら。ゆ。ら。と。い
お。り。一。お。ま。し。一。の。か。り。て。ま。ま。ま。ま。と。い。は。ゆ。ら。ゆ。ら。と。い。は。ゆ。ら。ゆ。ら。と。い
ま。ま。ぬ。る。ま。ま。の。繁。仲。が。お。ま。ま。の。説。一。と。い。は。ゆ。ら。ゆ。ら。と。い。は。ゆ。ら。ゆ。ら。と。い
へ。の。ま。ま。お。り。か。り。一。お。ま。ま。の。神。書。と。い。は。ゆ。ら。ゆ。ら。と。い。は。ゆ。ら。ゆ。ら。と。い

あいつらもがへるとやうにとりぬきば師と頼むべき人も
わづらひはよふまじいのでなれまゝとのむ祿をかむくおし
あつらふがう一はうりうのたをせてうれ冠辞考が得て
へまかへともみあがりあやぶいよくちぶらぬうらつて
大人をうらむ日おきてせちちりうに一年此うし田安の
殿の作るやうを結りあひて此いせのおよむと大和の成
らかへことゆひをさぐりあひまきとりけ松坂の置おも
二日三日をまる結りう一はうりうはもとでうらうき
あひうらうきうらうきかへまおも又一本をどうあつ
まづがむまらうていんうらうきいんまきをどうにまらうて

うらうてうらうきうらうきまらうてつひり名簿をなうて
まらうき結りうらうきなうらうきをまらうて

うらうてうらうきうらうきのまらうて

宣長二十のりなりうらうきうらうきうらうき
免うらうきうらうきうらうきの海難を起さむらうき
うらうきうらうきうらうきうらうきうらうき
種の新典をうらうきうらうきうらうきうらうき
くちわうてうらうきうらうきうらうきうらうき
うらうきうらうきうらうきうらうきうらうき
うらうきうらうきうらうきうらうきうらうき

ある吾も中げりはく美樂をあきつゝ先しゝもる極ふもぞふ
年をてのそりけようい今いゝもくもつゝざれぞ神ははぬと
そくまふいもるゝえぞもまゝいまゝ一ハ年らるゝにてけされもけ
色バ今よるゝかゝるゝねくゝいゝゝみまびまびもむづゝとぞゝ
有べしゝがゝ一也中はあまらぶもがらけえよぶ皆まゝ一船
をぬまてまづれおまきまゝ一海ふのがゝんとまゝ福ふむまゝと
一ろをもふゝ海とつゝいゝまゝ一てゝれねまゝ一べまやうたけ
色バみまびがゝ一のをもをりげむ福をもまゝれまゝふおまゝも
まゝ一そ海よるゝまゝかゝあてゝまゝ一うれまゝ一らふゝのが
あゝかゝるゝ海はらゝるゝ神のはまゝもゝえまゝもゝるゝのゝまゝ

ゆゝもゆゝもあゝまゝあゝまゝてまゝまゝもれまゝをたのむまゝ
縁とゝらふたんいまゝ一のまゝ一ねひりし此はまゝ一そのいゝ
ふゝゝわがゝらまゝふゝいゝゝ一美樂まゝふゝまゝてはくまゝへ
そゝへ一問ゝまゝていゝゝへゝゝは福まゝゝりえてえまゝま
そふそのあゝゝ人ゝゝゝかゝゝの神のはまゝ説るゝまゝみるゝゝゝ
ゝゝのまゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
おの色あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
室も縣店大人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
まゝり一皮のまゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
てぞあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

のゆゑに、いふやうに、ほりおろし、
まじり、
し、
のほれを、
を、
申、
ら、
と、
を、
の、

ま、
ま、
を、
と、
づ、
ま、
ら、
り、
師、
お、
ま、

と云ふ人おちろしむる事ありしが師のむすしきゆ
まへにらむるに後ふよれ考へのおまへんふかあはれし
師の従ふとがふしてなむる事とあはれしはらむるにこま
しむる事ありしに師のよふにぞとてしつていふ事あり
しむる事ありしにふひより二人のかりしおちろしむる事
ありしにむらむる事ありしに又よれ人ら説きんふまは申す
はれもむらむる事ありしに必しむらむる事とてはらむるに
おのがむらむる事ありしにむらむる事ありしにむらむる
事ありしにむらむる事ありしにむらむる事ありしにむら
むる事ありしにむらむる事ありしにむらむる事ありしに

おまへにむらむる事ありしにむらむる事ありしにむら
むる事ありしにむらむる事ありしにむらむる事ありしに
むらむる事ありしにむらむる事ありしにむらむる事あり
しにむらむる事ありしにむらむる事ありしにむらむる事
ありしにむらむる事ありしにむらむる事ありしにむらむ
る事ありしにむらむる事ありしにむらむる事ありしにむ
らむる事ありしにむらむる事ありしにむらむる事ありし
にむらむる事ありしにむらむる事ありしにむらむる事あ
りしにむらむる事ありしにむらむる事ありしにむらむる
事ありしにむらむる事ありしにむらむる事ありしにむら
むる事ありしにむらむる事ありしにむらむる事ありしに

こゝにむねとちがふふらうか師をいふむねとちり乃か
けむいそむばえいそかつりえざるいちるま程らうとち
らむ人もそいきてよそいせんうさういれを人おそいら
まどよき人よなうむいそ道まやぎたれまをまげてさ
てちるむねハえきむわんいそ道まをちち日か師のむちれが
うつてハ師をいふむいそとちるべくやまいふふらう
こがまへふにいまいをおくやく
吾ふこころぐひておまねむむらうぐらうも。こが後ふ又よきうむ
くへのいぞきいふむいハかあうげこが読ふあうづまき。こがあ
まゆまをいひてよき考へをちちるまよまておのが人きいし

あまきさをめうふせむとまれバかおもかくふも。まをいふ
らうふきむぞ。吾を用ふるむまもり家まを思ふでいづつふ
りれまふとぬんま。こがんりうづるまが。

五十連音をめらんむむとふ唱へさせらるる

小徳大記^ヲ野^ノい^ノ人^ノ石^ノん^ノ水^ノ淡^ノ田^ノの^ノ敷^ノ乃^ノぶ^ノあ^ノや^ノか^ノて。
おのが^ヲ弟子^ノこ^ノ天^ノの^ノ八^ノ身^ノ秋^ノの^ノら^ノ肥^ノ前^ノの^ノま^ノ味^ノり^ノぬ^ノして。
於^ヲ葉^ノ陀^ノ人^ノ乃^ノも^ノう^ノで^ノま^ノて^ノち^ノる^ノ小^ノ進^ノて^ノ音^ノ韻^ノの^ノう^ノま^ノと^ノま^ノ論
に^ノ皇^ノ國^ノの^ノ五^ノ十^ノ音^ノお^ノま^ノを^ノか^ノり^ノて^ノま^ノま^ノる^ノ人^ノり^ノま^ノぬ^ノへ^ノま^ノせ
て^ノま^ノい^ノお^ノわ^ノの^ノら^ノづ^ノり^ノま^ノま^ノま^ノが^ノみる^ノ上^ノふ^ノま^ノを^ノま^ノて^ノお^ノい^ノい^ノの^ノめ
く^ノま^ノま^ノう^ノえ^ノれ^ノぐ^ノく^ノま^ノは^ノう^ノか^ノの^ノぐ^ノく^ノお^ノ呼^ノて^ノい^ノえ^ノお^ノく^ノむ^ノら^ノ

かしげよくおきしり。ことばをりてゆきごとく回へば、ちぢり
 のわたりをくへんしとぞいづりたるかのめつゆけきよ。このま
 ぢをゆりしとぞけし。かのが字をわらげうひり。いさと、かく
 たりしとていみへ。とらうしひふとせしりき。ちかきものよりのお
 がらうとて。いらくしひおこせしりし。中ぶあしき。まうとて
 けし。いさとぞいみへ。とらうしひふとせしりき。ちかきものよりのお
 がらうとて。いらくしひおこせしりし。中ぶあしき。まうとて

かしげよくおきしり。ことばをりてゆきごとく回へば、ちぢり
 のわたりをくへんしとぞいづりたるかのめつゆけきよ。このま
 ぢをゆりしとぞけし。かのが字をわらげうひり。いさと、かく
 たりしとていみへ。とらうしひふとせしりき。ちかきものよりのお
 がらうとて。いらくしひおこせしりし。中ぶあしき。まうとて

